



株式会社クボタ

〒556-8601 大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号

お問い合わせ先 CSR企画部

Tel : 06 (6648) 2937 Fax : 06 (6648) 3862

For Earth, For Life
Kubota

2018 KUBOTA REPORT

事業・CSR報告書〈ダイジェスト版〉



わたしたちは、環境先進企業として、環境省と環境保全のお約束をしました。



「食料・水・環境」分野の課題解決で、低炭素社会へ。
気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同しています。

Water Project



官民連携啓発プロジェクト「ウォータープロジェクト」に参加しています。



未来のために、いま選ぼう。
地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に賛同しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC®認証紙を使用しています。



この印刷物は植物油インキを使用しています。



有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



CO₂の「見える化」カーボンフットプリント
https://www.cfp-japan.jp
CR-BS05-18004

クボタグループは「食料・水・環境」分野で世界に貢献します。

人類の生存に欠かすことのできない食料・水・環境。
クボタグループは、優れた製品・技術・サービスを通じ、豊かで安定的な食料の生産、安心な水の供給と再生、快適な生活環境の創造に貢献し、地球と人の未来を支え続けます。



クボタ・グローバル・ループ

編集方針

本レポートは、クボタグループの世界的視野に立った事業・CSR活動をステークホルダーの皆様によりわかりやすく報告することを目的に編集しています。

クボタグループは、世界の持続可能な開発の目標であるSDGs*の内容も踏まえ、事業活動を通じてグローバルな課題の解決にチャレンジしています。



* SDGs (Sustainable Development Goals)の詳細については、国際連合広報センターのWebサイトをご覧ください。

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

ダイジェスト版とフルレポート版の関係について

■ダイジェスト版
クボタグループの全体像を把握していただきやすいようにビジュアル中心にご紹介しています。

■フルレポート版
事業・CSR活動の詳細について網羅的に情報を開示しています。

<http://www.kubota.co.jp/report/>

報告対象期間

2017年1月～2017年12月
※一部、上記期間外の事柄についても記載しています。

報告対象組織

原則として、クボタグループすべてを対象としています。
※一部、クボタ単体を対象としている場合は、その旨記載しています。

Contents

KUBOTA REPORT 2018

事業・CSR報告書(ダイジェスト版)

■トップメッセージ02

■社会課題に引き続ききたクボタ

～事業・製品の変遷～

- 社会課題に応じて築いた事業の礎03
- 社会の発展にともなう課題への取り組み04
- グローバルな社会課題に挑戦する企業へ05
- 世界的な課題であるSDGsの達成に向けて06
- クボタグループがめざす方向性07
- 企業理念・グローバル体制08

【特集】“Global Major Brand Kubota”の実現に向けて
～SDGsへの取り組み事例～

- 〈食料〉世代を超えて農家の暮らしを支える
(アジア)09
- 〈水〉雨の降らない砂漠の街に水を安定的に届ける
(中東諸国)11
- 〈環境〉古き良き街並みを守りながら都市を発展させる
(欧州)13
- 世界各地のSDGsへの取り組み事例15

■経営・事業報告

- 財務の状況17
- クボタグループの主要製品(機械部門)19
- クボタグループの主要製品(水・環境部門)21
- 事業概況22

■CSR実践報告

- 〈Environment〉環境への取り組み23
- 〈Social〉社会への取り組み25
- 〈Governance〉ガバナンスへの取り組み27

■企業プロフィール

- 未来に引き継がれるクボタの精神29
- 会社概要30

TOP MESSAGE

トップメッセージ

SDGsを羅針盤とし、「グローバル・メジャー・ブランド クボタ」実現への道を進んでまいります。

クボタは、1890年(明治23年)の創業以来、水道用鉄管による近代水道の整備、農業機械による食料増産と省力化など、暮らしと社会に貢献するさまざまな製品を世に送り出してきました。今日、世界は人類の生存に欠かすことのできない食料・水・環境の分野で多くの課題を抱えています。食料・水・環境を一体のものとして捉え、優れた製品・技術・サービスを通じて社会の課題を解決し、地球と人の未来を支え続けることが私たちの使命と考えます。

現在、クボタグループは「グローバル・メジャー・ブランド(以下、GMB)」の実現をめざしています。それは、単に売上や利益で世界のトップになることではなく、「最も多くのお客様から信頼されることによって、最も多くの社会貢献をなす企業(ブランド)」になることです。

2015年に国連は、国際社会の共通目標として「飢餓をゼロに」、「安全な水とトイレを世界中に」など17に及ぶSDGs(持続可能な開発目標)を決議しました。SDGsがめざす方向性は、「For Earth, For Life」を標榜し、食料・水・環境分野において世界への貢献を果たす「GMBクボタ」がめざす方向性と同じであると認識しております。

また、現在の事業の推進だけではなく、SDGsへの取り組みを通じて、新たな事業機会を獲得し、CSR経営をレベルアップすることは、「GMBクボタ」の実現に大きく寄与すると考えています。

国・地域・部門を越えてクボタグループが一丸となって、今まで以上にお客様や社会から信頼される企業をめざしてまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2018年3月

株式会社クボタ
代表取締役社長

木 股 昌 俊



社会課題に答え続けてきたクボタ

～事業・製品の変遷～

「食料・水・環境」分野の課題を解決する製品・技術・サービス

その原点は「国の発展に役立つ商品は、全知全霊を込めて作り出さなければ生まれない」「技術的に優れているだけでなく、社会の皆様に役立つものでなければならない」という創業以来のDNAです。
創業者・久保田権四郎の事業による社会貢献の精神は、130年近くの時を経た今も脈々と受け継がれています。

社会課題に応じて築いた事業の礎

社会の発展にともなう課題への取り組み

企業スローガン・
ブランドステートメント

1955年「国づくりから米づくりまで」

1969年「ゆたかな人間環境づくり」

1980年「技術で応えるたしかな未来」
1992年「美しい日本をつくろう。」

戦後の深刻な食料不足への対応

農業労働人口の減少を補う農業機械化への対応

1890

鋳物メーカーとして創業。
衡器用鋳物・日用品鋳物の
製造開始



創業者 久保田 権四郎
(1870-1959)

1947

農業機械化の先駆けとなる「耕うん機」を開発



耕うん機第1号機

1960

農村部の労働力不足を支えるために、国産初の「トラクタ」を開発



国産初の畑作用乗用トラクタ (T15形)

1965

「バインダー」を開発し、刈取作業の能率が飛躍的に向上



小型バインダー

1968

業界初となる歩行型全自動の「田植機」を開発し、過酷な田植え作業を機械化



後の田植機の原型となった歩行型全自動田植機 (SPS形)

コレラの流行により急務であった水道整備に貢献

戦後の水道インフラ整備に貢献

高度経済成長による水環境の悪化への対応

水関連技術の海外需要にも対応

1893

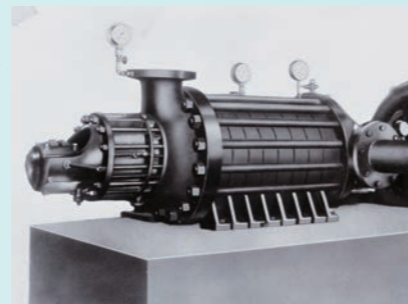
国内で初の「水道用鉄管」の製造に成功し、近代水道の整備に貢献



1905年頃のクボタ鉄管出荷場

1952

水の流れを生む「ポンプ」を事業化



ポンプ第1号機 (発電所向け750馬力ボイラー給水用タービンポンプ)

1962

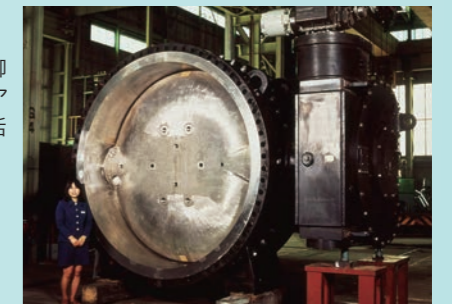
「水処理事業」に進出し、顕在化してきた水質汚染問題に対応



事業部発足後に初受注した 広島県三次市のし尿処理施設

1972

水道トンネル制御用の「バルブ」がアメリカの市民生活に貢献



ニューヨーク市水道局に納入した 口径2400mmステンレス製メタルシートパタフライ弁

戦後の社会インフラ整備に貢献

産業発展にともなう機械化需要増大への対応

都市環境整備のための工事増加への対応

「自分の魂を打ち込んだ品物を作りだすこと
又其の品物には正しき意味に於ける
商品価値を具現せしむること」

1953

パワーショベルなどを開発し、戦後の復興に貢献



積み込み作業を行う、機械式パワーショベル (KB60形)

1953

小型・高性能・高出力のエンジンを提供し、様々な産業の発展に寄与



軽量な超小型エンジン (SH形)

1974

小型建機ミニバックホーの製造を開始し、小規模な都市型工事に貢献



後のクボタミニバックホーのベースとなった全旋回式小型油圧ショベル(KH1)

社会課題に答え続けてきたクボタ

～事業・製品の変遷～

事業活動を通じて、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の達成に寄与

クボタグループはこれからも、社会と企業の持続的な発展に向けて社会課題の解決に貢献しながら、「グローバル・メジャー・ブランド クボタ」の実現をめざします。 [詳細はP.07](#)

グローバルな社会課題に挑戦する企業へ

世界的な課題であるSDGsの達成に向けて

2006年 「社会の底力」

2012年

For Earth, For Life
Kubota

クボタグループの事業領域

事業と関連の深いSDGs*

全ての事業に
共通するSDGs

世界の主流である畑作市場への対応

2014

フランスに大型畑作用トラクタの生産会社を設立し、稲作の4倍ある畑作市場に対応



高い操作性、機動性、快適性を実現した大型トラクタ (M7001シリーズ)

食料需要が増大し続けるアジアへの対応

2017

中国で工場を拡充する等、人口増加にともない、増え続けるアジアの食料需要に対応



中国市場に投入したホイールコンバイン

クボタグループは、農業の効率化によって豊かで安定的な食料の生産に貢献します。

食料

2 飢餓をゼロに



1 貧困をなくそう



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



自然災害に備えた社会インフラ整備への対応

2013

過去の大地震で一切被害のないクボタの耐震管がアメリカでも評価



ロサンゼルスでの耐震管「GENEX®」の施工現場

途上国の持続可能な発展への貢献

2015

ミャンマー初の経済特区で上下水処理施設等の建設を受注し、同国のインフラ整備に貢献



ティラワ工業団地Zone AIに施工した浄水場

クボタグループは、水インフラの整備によって安心な水の供給と再生に貢献します。

水

6 安全な水とトイレを世界中に



3 すべての人に健康と福祉を



12 つくる責任 つかう責任



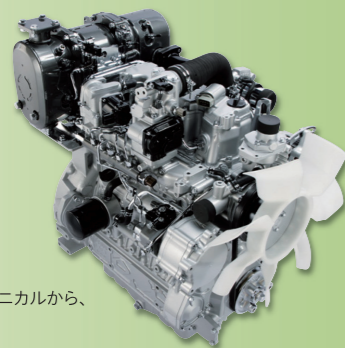
13 気候変動に具体的な対策を



世界的な大気汚染問題への対応

2011

世界で初めて米国CARBの認証を取得するなど、世界のエンジン排ガス規制にスピーディに対応



燃料噴射の制御方法をメカニカルから、高度化した電子制御にし、第4次排ガス規制に対応

世界で拡大する建設需要への対応

2016

スキッドステアローダを新たに投入し、多様な作業ニーズに対応



上:スキッドステアローダ
下:左からミニバックホー、ホイールローダ、コンパクトトラックローダ

クボタグループは、社会基盤の整備によって快適な生活環境の創造と保全に貢献します。

環境

11 住み続けられるまちづくりを



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



※ SDGs(Sustainable Development Goals)の詳細については、国際連合広報センターのWebサイトをご覧ください。
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

社会課題に答え続けてきたクボタ

クボタグループがめざす方向性

「グローバル・メジャー・ブランド クボタ」の実現

クボタグループがめざす「グローバル・メジャー・ブランド」とは、
 最も多くのお客様から信頼されることによって、最も多くの社会貢献をなすうるブランドです。
 当社の製品や技術、サービスの提供を通じて、世界共通のテーマであるSDGsを羅針盤としながら、
 「食料・水・環境」分野における課題を解決し、お客様に喜んでいただく企業となることを、私たちはめざします。



「グローバル・メジャー・ブランド」をめざすクボタの

企業理念

「クボタ グローバル アイデンティティ」

スピリッツ (私たちの精神・姿勢)

- 一、総合力を生かしすぐれた製品と技術を通じて社会の発展につくそう
- 一、会社の繁栄と従業員の幸福を希って今日を築き明日を拓こう
- 一、創意と勇気をもって未知の世界に挑戦しよう

ブランドステートメント (私たちの約束)

For Earth, For Life Kubota

ミッション (私たちの使命)

人類の生存に欠かすことのできない食料・水・環境。
 クボタグループは、優れた製品・技術・サービスを通じ、
 豊かで安定的な食料の生産、安心な水の供給と再生、
 快適な生活環境の創造に貢献し、地球と人の未来を
 支え続けます。

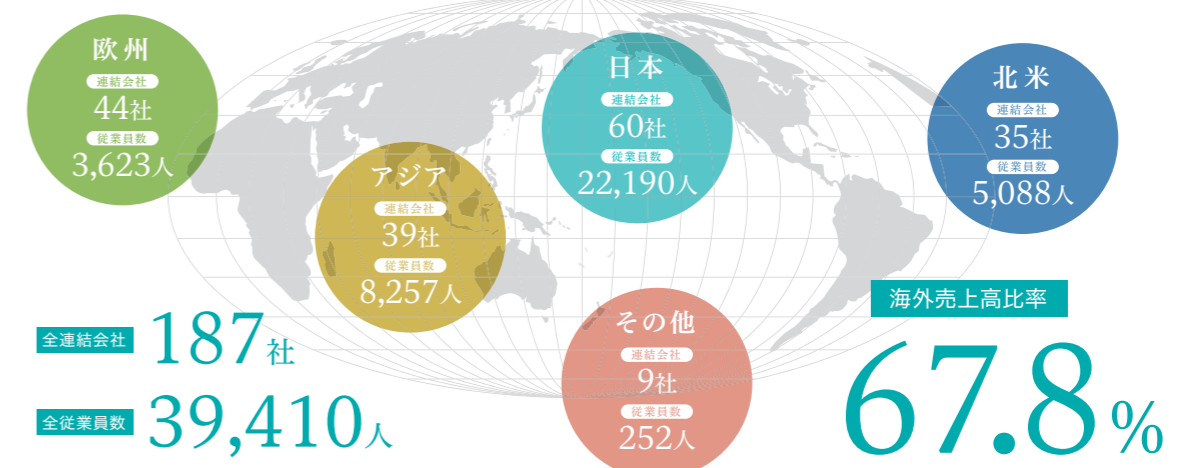


※企業理念は世界22カ国語を用意し、世界のクボタグループ従業員に浸透を図っています。

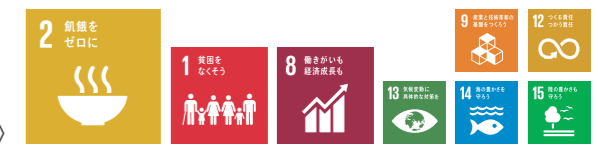
クボタ・グローバル・ループ

「グローバル・メジャー・ブランド」をめざすクボタの

グローバル体制



(2017年12月31日現在)



食料

世代を超えて 農家の暮らしを支える

— アジア —

ベトナム。

日本よりも狭い、この国は

実は米の輸出量世界第3位の農業大国です。

特に、南部のメコン川周辺に広がるメコンデルタは
豊かな実りをもたらす肥沃な稲作地帯。

二期作、三期作があたりまえというその土地で、
クボタのトラクタは、この国の人々に愛用され
世代を超えて大切に乗り継がれてきました。

過酷な三期作にも対応できる優れた耐久性はもちろん
低労働で高収穫をもたらすことのできる高い効率性や
賃耕ビジネスにも対応できる良質な投資性が評価され
今や、世界の食料供給に重要な役割を果たすベトナムにおける
リーディングブランドとしてこの国の農業を支えています。

クボタはこれからも、

豊かで安定的な食料の生産に貢献します。



カタール。
広がる砂漠、灼熱の大地。この地域では、
水はそこに住む人々の暮らしと命を支える大切な資源です。
かつては水を、動物を使って運んでいたこの砂漠地帯では、
国家的上水道プロジェクトが進められてきました。
過酷な砂漠が広がるこの地域で、
クボタは総延長数百キロに及ぶダクタイル鉄管を供給。
遙か彼方の海から淡水化した水を、その水質を損なうことなく、
安定的に運び続けるという根幹の役割を託されたのです。
最高気温50度を超える環境に耐える品質はもちろん
9メートルもの長さの鉄管を作りうる技術力、そして
何十年にもわたって培われた信頼によって
クボタは途方もない国家プロジェクトの一翼を担うことになったのです。

クボタはこれからも、
安心な水の供給と再生に貢献します。

水

雨の降らない
砂漠の街に
水を安定的に届ける

— 中東諸国 —



環境

古き良き 街並みを守りながら 都市を発展させる

— 欧州 —

フランス。
古き良き風景を残す美しい街、パリ。
世界中から観光客が訪れるこの街は、
交通やインフラを整備しパリをさらに発展させようという
都市計画が進められてきました。
歴史的な建物が多いこの街の工事現場で、
クボタは長年にわたって小型建機を供給。
難易度の高い工事に貢献し続けてきました。
狭い路地でも歴史的な建造物を傷つけない
機動性や作業性はもちろん、厳しい環境規制にも適合し
今や、歴史保全と環境保全に厳しいヨーロッパで
シェアNo.1を約30年もの間維持しています。

クボタはこれからも、
快適な生活環境の創造と保全に貢献します。

[特集] “Global Major Brand Kubota”の実現に向けて

～世界各地のSDGsへの取り組み事例～



クボタグループは世界各地でSDGsの達成につながる取り組みを行っています。 ※ここでは、事業と関連の深いSDGsだけを掲載しています。

North America【北米】



アメリカ



トラクタとインプレメントのシナジーの創出により北米畑作市場のニーズに応える



アメリカ



小型建設機械の総合メーカーとして旺盛な建設需要に応える建設機械

Middle East【中東】



オマーン

寄生虫も細菌類もシャットアウトする液中膜の下水処理



アラブドバイ

砂漠の人々に水を届けるライフラインの水道管

Europe【欧州】



フランス

EU第一の農業大国フランスを支える大型畑作用トラクタ



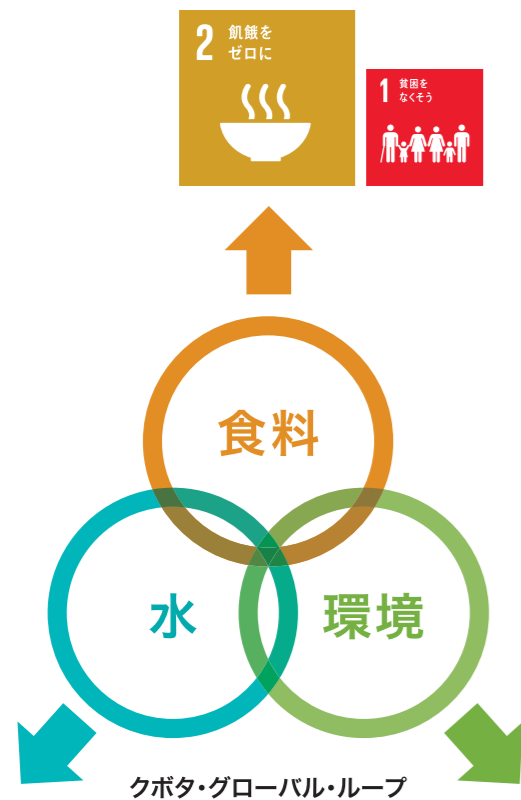
フランス

世界の排ガス規制にスピーディに対応し、多種多様な産業機械の動力源として活躍するエンジン



ドイツ

中世以来の街並みが残る住宅地の狭い道で活躍するミニバックホー



Africa【アフリカ】



南アフリカ

低燃費と優れた耐久性で果樹園農家のニーズに応えるトラクタ



ケニア

農業分野の成長のカギとなる低燃費を実現するトラクタ

Asia【アジア】



インド

牽引力と優れた耐久性で現地の過酷な使用にも耐える多目的トラクタ



中国

コンパクトなボディで都市部の建設現場を支えるミニバックホー



中国

刈取を請負う専門業者の、性能・サポート面でのニーズに応えるコンバイン



タイ

伝統農法から機械化まで、米作りの歴史に寄り添うトラクタ



ベトナム

東南アジアで急伸するクリーンな水へのニーズに応える浄化槽

Central and South America【中南米】



ドミニカ共和国

沈まず壊れない、稲作に活躍するトラクタ



財務の状況

2017年12月期の売上高は前期比1,554億円(9.7%)増加して1兆7,515億円となりました。国内では、農業関連商品やトラクタなどが好調だった機械部門が伸長しました。海外では、世界的な好景気と建設需要の拡大を背景に建設機械やエンジンが大幅に増加し、トラクタも順調に拡大しました。

営業利益は前期比100億円(5.3%)増加して1,988億円となりました。税金等調整前当期純利益は前期比159億円(8.1%)増加して2,129億円となりました。法人所得税は米国法人税率の変更決定の影響もあって134億円負担増の699億円となり、持分法による投資損益、非支配持分帰属損益を合計した当社株主に帰属する当期純利益は前期を40億円(3.0%)上回る1,364億円となりました。

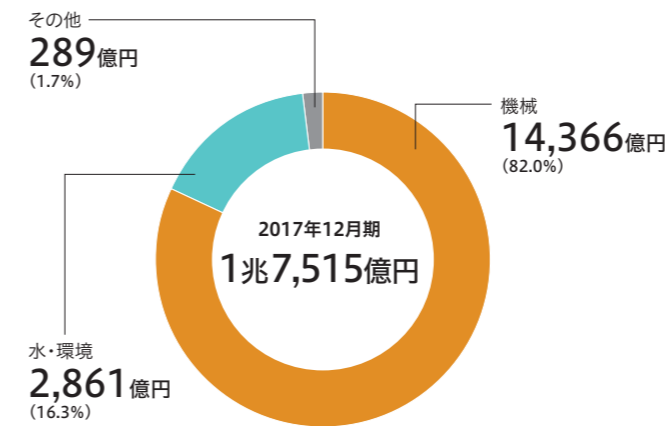
※2015年12月期は、決算期変更により2015年4月1日から2015年12月31日までの9ヵ月間となっています。このため、一部の指標につきましては、参考としてグラフに12ヵ月間(2015年1月1日から12月31日)の情報を記載しています。なお、2015年12月期のROA・ROEは、12ヵ月間で計算したもののみ記載しています。

| 主要財務指標の5か年サマリー | 2014.3 | 2015.3 | 2015.12 (9ヵ月) | 2016.12 | 2017.12 | 2015.12 (12ヵ月参考値) |
|-----------------------------------|----------|----------|------------------|----------|----------|----------------------|
| 事業年度(億円) | | | | | | |
| 売上高 | ¥ 15,105 | ¥ 15,843 | ¥ 12,448 | ¥ 15,961 | ¥ 17,515 | ¥ 16,886 |
| 営業利益 | 2,039 | 2,031 | 1,669 | 1,888 | 1,988 | 2,229 |
| 税金等調整前当期純利益 | 2,124 | 2,107 | 1,695 | 1,970 | 2,129 | 2,240 |
| 当社株主に帰属する当期純利益 | 1,327 | 1,395 | 1,101 | 1,325 | 1,364 | 1,494 |
| 設備投資額 | 516 | 504 | 353 | 654 | 522 | 539 |
| 減価償却費 | 353 | 382 | 312 | 434 | 453 | 414 |
| 研究開発費 | 360 | 395 | 296 | 430 | 481 | 394 |
| 営業キャッシュ・フロー | 830 | 859 | 1,970 | 1,850 | 2,223 | 2,059 |
| 事業年度末(億円) | | | | | | |
| 総資産 | ¥ 21,107 | ¥ 24,722 | ¥ 25,329 | ¥ 26,706 | ¥ 28,539 | ¥ 25,329 |
| 株主資本 | 9,358 | 11,001 | 11,403 | 11,988 | 13,013 | 11,403 |
| 有利子負債 | 5,921 | 7,651 | 7,687 | 8,180 | 8,366 | 7,687 |
| 1株当たり情報(円) | | | | | | |
| 当社株主に帰属する当期純利益(EPS) ^{※1} | ¥ 105.74 | ¥ 111.68 | ¥ 88.47 | ¥ 106.58 | ¥ 110.30 | ¥ 119.93 |
| 株主資本(BPS) ^{※2} | 748.76 | 883.10 | 916.28 | 966.19 | 1054.86 | 916.28 |
| 配当金 | 28 | 28 | 28 | 30 | 32 | — |
| 主要財務データ | | | | | | |
| 営業利益率 | (%) 13.5 | 12.8 | 13.4 | 11.8 | 11.4 | 13.2 |
| 総資産利益率(ROA) ^{※3} | (%) 10.7 | 9.2 | — | 7.6 | 7.7 | 9.0 |
| 株主資本利益率(ROE) ^{※4} | (%) 15.3 | 13.7 | — | 11.3 | 10.9 | 13.5 |
| 株主資本比率 | (%) 44.3 | 44.5 | 45.0 | 44.9 | 45.6 | 45.0 |
| 配当性向 | (%) 26.5 | 25.1 | 31.6 | 28.1 | 29.0 | — |
| 総還元性向 ^{※5} | (%) 34.0 | 30.6 | 33.9 | 32.7 | 38.6 | — |
| 純負債資本倍率(ネットDEレシオ) ^{※6} | (倍) 0.54 | 0.59 | 0.55 | 0.54 | 0.47 | 0.55 |

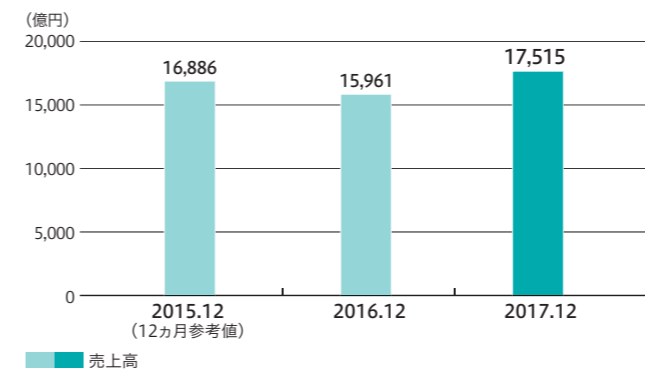
※1 1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(EPS) = 当社株主に帰属する当期純利益/期中加重平均株式数
 ※2 1株当たり株主資本(BPS) = 株主資本/期末発行済株式数
 ※3 総資産利益率(ROA) = 税金等調整前当期純利益/各期首・期末の平均総資産
 ※4 株主資本利益率(ROE) = 当社株主に帰属する当期純利益/各期首・期末の平均株主資本
 ※5 総還元性向 = (配当金支払額 + 自己株消却額)/当社株主に帰属する当期純利益
 ※6 純負債資本倍率(ネットDEレシオ) = (有利子負債 - 現金及び現金同等物)/株主資本

詳細な財務情報に関しては、『有価証券報告書』をご覧ください。
<http://www.kubota.co.jp/ir/financial/yuho.html>

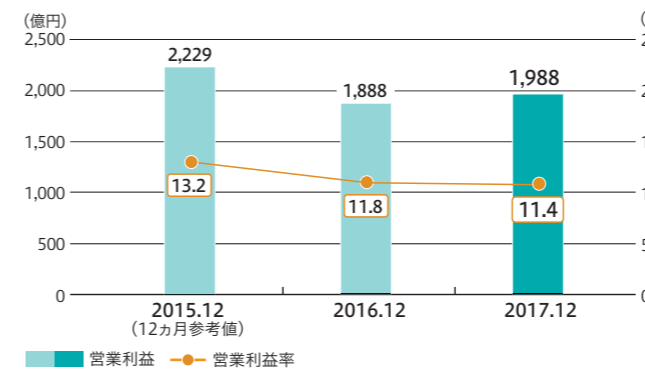
部門別売上高



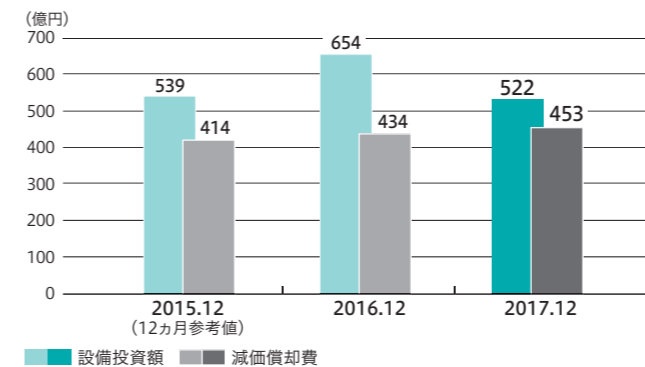
売上高



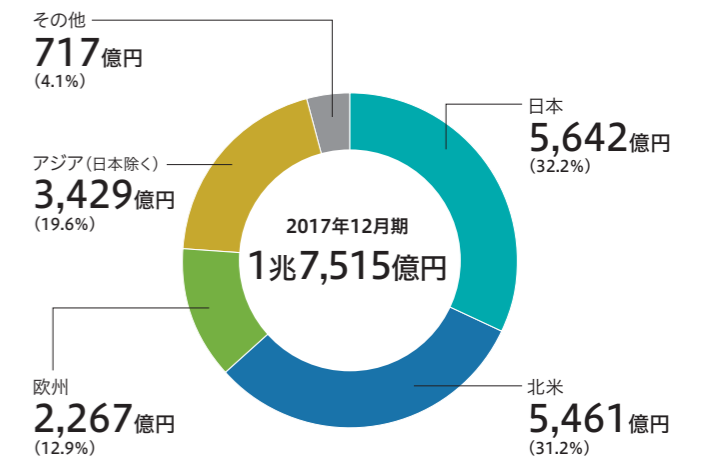
営業利益・営業利益率



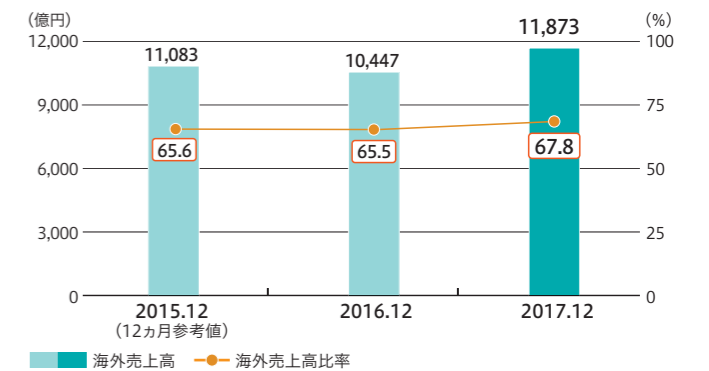
設備投資額・減価償却費



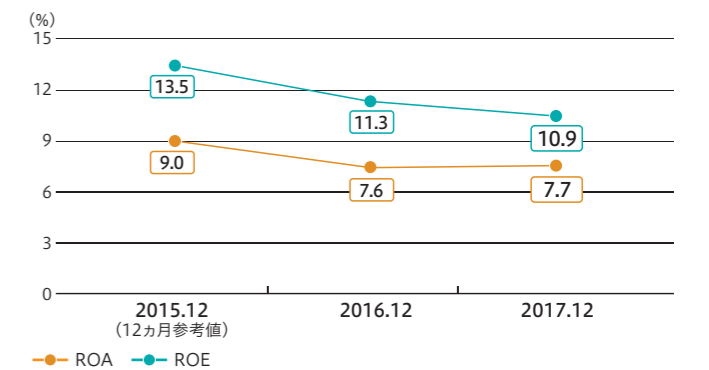
地域別売上高



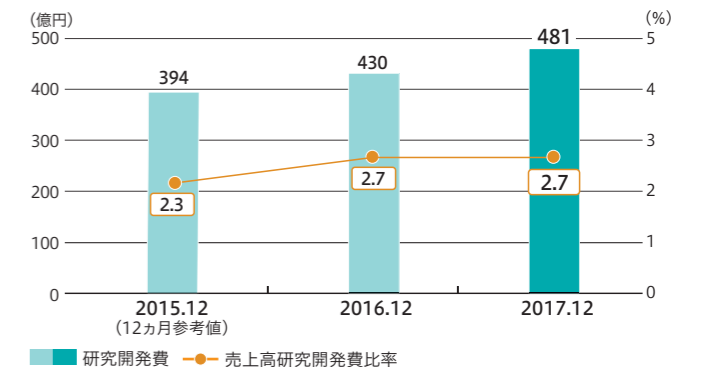
海外売上高・海外売上高比率



ROA^{※3}・ROE^{※4}



研究開発費・売上高研究開発費比率



クボタグループの主要製品



機械部門

農業機械および農業関連商品



トラクタ
主に耕うん・整地・運搬などの農作業を行います。

インプラメント
トラクタに接続して使用し、さまざまな作業を行います。



コンバイン
コメや麦、豆類などを刈り取ると同時に脱穀します。



田植機
稲の苗を水田に移植します。省人・軽労化に大きく貢献します。



ユーティリティビークル
農作業、土木作業、レジャーなど多目的に活躍します。



乗用芝刈機
一般家庭の庭、オフィス周り、公園などの芝刈を行います。

建設機械



ミニバックホー
土木作業などを行います。市街地など狭い現場を得意とします。



ホイールローダ
主に建設現場や農場などで、運搬・積込作業を行います。



コンパクトトラックローダ



スキッドステアローダ

エンジン



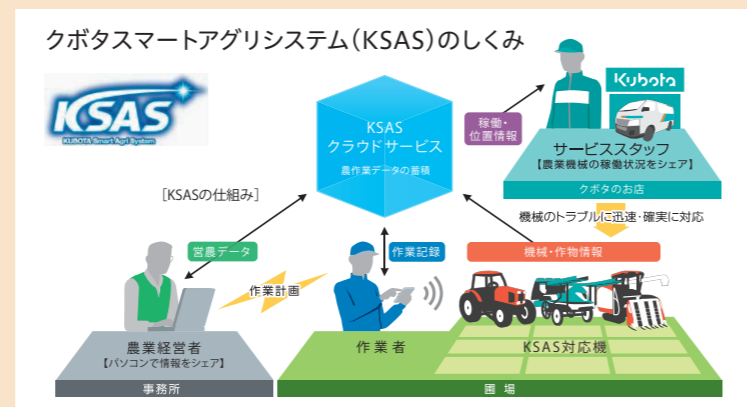
ガソリンエンジン(左) / ディーゼルエンジン(右)
農業機械、建設機械など産業機械の動力源として使用されます。

クボタグループにおけるICT×IoT(農業機械)

クボタがめざすスマート農業

就農人口の高齢化や農家の大規模化を背景に、今、高収量・高品質な農作物を効率的に生産することが世界的に求められています。

当社はICT(情報通信技術)を農業にいち早く取り入れることでスマート農業を実現し、これからも豊かで安定的な食料の生産に貢献していきます。



クボタスマートアグリシステム(KSAS)
最先端技術とICTを融合させた営農支援システム。
データで農業を「見える化」し、経験や勘に頼らない効率的な農業を支援します。



自動運転農機
GPS(全地球測位システム)を活用することで有人監視下での無人自動運転作業ができる自動運転農機を開発。
すでにモニター販売を開始した「アグリロボトラクタ」に続いて、田植機、コンバインの開発も進めています。



直進キープ機能付 田植機

クボタグループの 主要製品



水・環境部門

■ パイプシステム・水処理施設



ダクタイル鉄管
上下水道や農業用水などのインフラに使用されます。



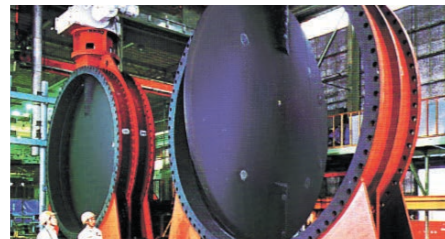
プラスチックパイプ
水道・下水道・ガス管などのインフラとして使用されます。



液中膜ユニット
生活排水や産業排水など下水を浄化します。



ポンプ
水道・下水道・雨水排水などで、水を圧送するために使用されます。



バルブ
水道・下水道などで、液体・気体を制御するために使用されます。



浄化槽
下水道が整備されていない地域の排水処理を行います。

■ 素形材



鋳鋼
石油化学プラントでエチレン精製などに使用されます。



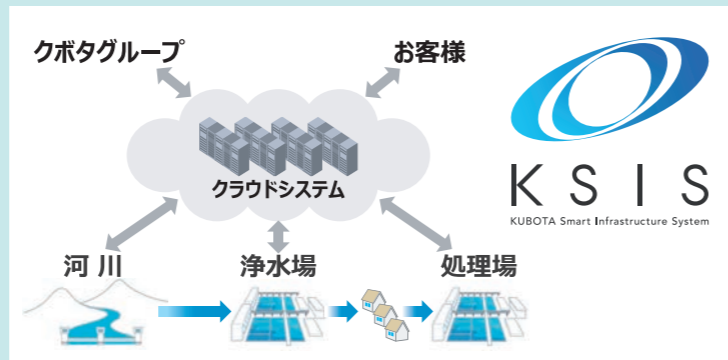
鋼管
橋梁、港湾、河川、建築物などの基礎工事に使用されます。

クボタグループにおけるICT×IoT(水環境事業)

クボタがめざす IoTで見守る水環境インフラ

水環境分野においてIoTを活用した新サービス「クボタスマートインフラストラクチャシステム(KSIS)」を開発。現在、NTTグループとの連携協定により、AIによる設備診断などの研究開発を行っており、順次サービスに展開する予定です。

製品・プラント機器単体から、システム・アフターサービスまで含めたトータルソリューションサービスの提供を通じて、国内外のお客様の課題解決に貢献します。



詳細な製品情報に関しては、当社Webサイトをご覧ください。
<http://www.kubota.co.jp/product/>

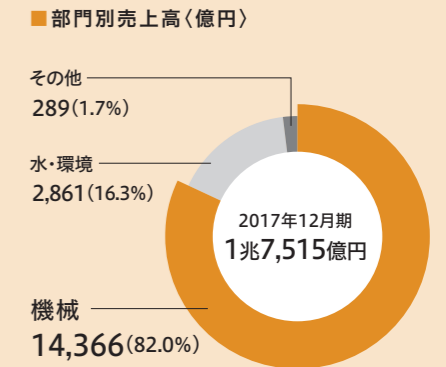


事業概況

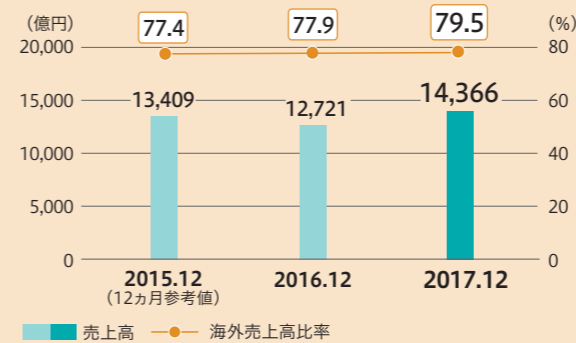
機械部門

2017年度 の業績

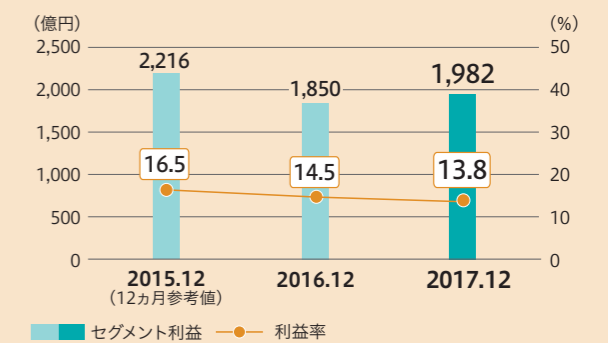
機械部門の売上高は、前期比12.9%増加して1兆4,366億円となり、売上高全体の82.0%を占めました。国内売上高は前期比4.6%増の2,945億円、海外売上高は前期比15.3%増の1兆1,421億円となりました。当部門のセグメント利益は、前期比7.1%増加して1,982億円となりました。



■ 売上高・海外売上高比率



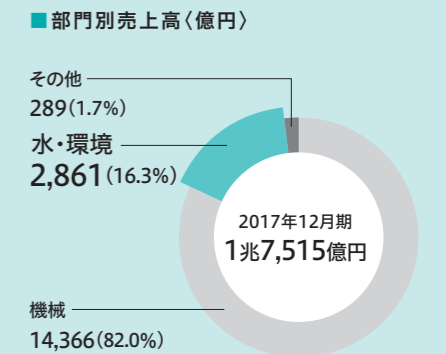
■ セグメント利益・利益率



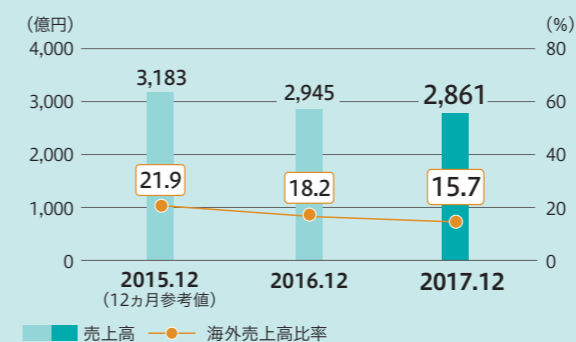
水・環境部門

2017年度 の業績

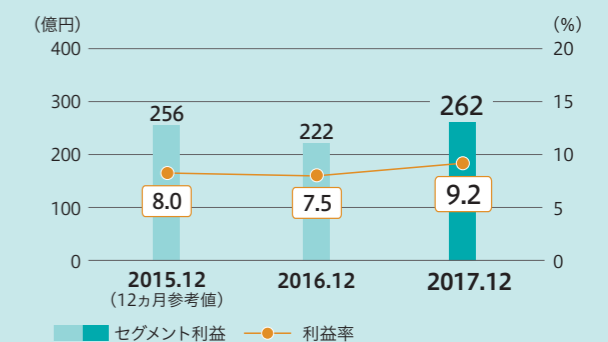
水・環境部門の売上高は、前期比2.9%減少して2,861億円となり、売上高全体の16.3%を占めました。国内売上高は前期比0.1%増の2,411億円、海外売上高は前期比16.2%減の450億円となりました。当部門のセグメント利益は、前期比18.3%増加して262億円となりました。



■ 売上高・海外売上高比率



■ セグメント利益・利益率



Environment 環境への取り組み

クボタグループは、創業当時から社会課題の解決を使命とし、事業を通じて社会の発展と地球環境保全に貢献してきました。今までも、そして、これからも「For Earth, For Life」の実現に向けて、環境経営の取り組みを進めていきます。

クボタグループの環境経営

持続可能な社会の構築に向けて

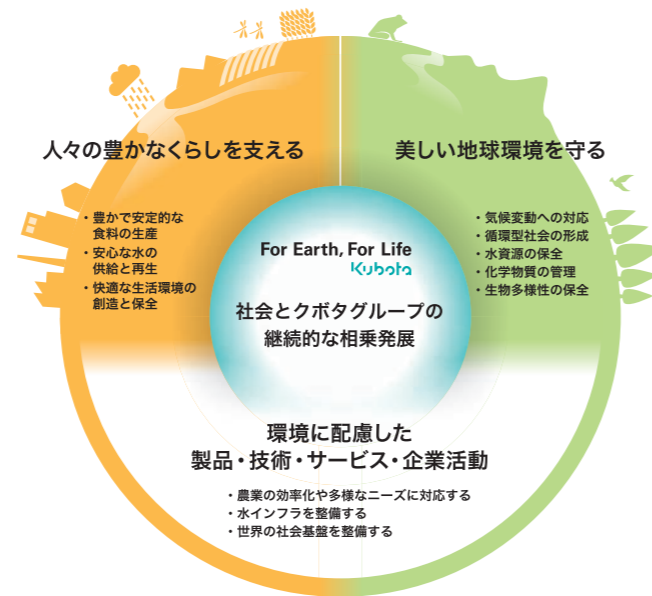
クボタグループは「For Earth, For Life」の実現に向けて、環境に配慮した製品・技術・サービス・企業活動を通じて、事業成長と環境保全への貢献を両立し、社会との継続的な相乗発展をめざしています。

環境保全の基本項目として、以下の5項目を定めています。

- 気候変動への対応
- 化学物質の管理
- 循環型社会の形成
- 生物多様性の保全
- 水資源の保全

企業活動における環境負荷の削減や環境リスクの低減に取り組むとともに、食料・水・生活環境の分野における社会課題の解決に寄与する製品・技術・サービスを通じて、地球環境保全に貢献します。

■ 環境経営のコンセプト



環境保全中長期目標（抜粋）

クボタグループは、環境保全に関する中長期目標として「環境保全長期目標2030」および「環境保全中期目標2020」を策定し、これらの目標に向けて生産および製品開発段階において計画的に取り組むを進めています。

2030年度

CO₂ 国内拠点のCO₂排出量 **30%削減**
(2014年度比)

Eco エコプロダクツ 売上高比率 **80%以上**

2020年度

CO₂ グローバル生産拠点のCO₂原単位 **14%削減**
(2014年度比)

エコ・ファーストの約束を更新

クボタグループは2010年5月に、環境保全への取り組みを約束し、環境大臣より「エコ・ファースト企業」に認定されました。また、環境保全中長期目標に基づいて「エコ・ファーストの約束」を更新し、2017年10月に「エコ・ファースト企業」に再認定されました。



CDPウォーターで最高ランクを獲得

2017年度の水資源管理に関する調査「CDPウォーター」において、最高評価であるAリストに選定されました。取水から排水までトータルで製品を供給する「水の総合ブランド」として、世界の水インフラ整備に貢献していることや事業活動における水使用量削減の取り組みが評価されました。



※CDPとは：機関投資家と連携し、企業に対して気候変動、水、森林に関する戦略やデータの公表を求めるプロジェクト。

詳細は、当社Webサイトをご覧ください。
<http://www.kubota.co.jp/kubota-ep/main/active.html>



(環境への取り組みに関連するSDGs)



環境負荷削減活動の事例

ソーラー発電導入によるCO₂削減

SIAM KUBOTA Corporation Co., Ltd.アマタナコン工場(タイ)で、工場拡張にともない、屋上および壁面に太陽光発電パネルを導入しました。拡張エリアは2017年10月から本格稼働し、コンパインの生産能力を増強しました。

太陽光発電設備の発電容量は合計535.5kWで、年間発電量は780MWh、年間350トンのCO₂削減効果を見込んでいます。



壁面に設置した出力25.2kW相当の太陽光パネル

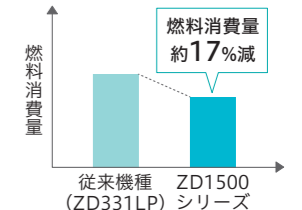


屋上に設置した出力510.3kW相当の太陽光パネル

ゼロターンモアの作業効率改善

ゼロターンモア ZD1500シリーズは北米で展開している乗用ディーゼル芝刈機です。独自の刈取り方式で作業効率を大幅に改善し、燃料消費量も従来機種に対して約17%削減しています。

搭載エンジンは北米の最新の排ガス規制 EPA Tier4 (エンジン出力19kW以上37kW未満)に適合しています。



ゼロターンモア ZD1500シリーズ

従業員による環境への取り組み

フォトコンテスト「クボタエコチャレンジ」

クボタグループでは毎年6月を環境月間と定めて、従業員の環境意識啓発のための取り組みを実施しています。「クボタエコチャレンジ」とは、世界中のグループ従業員とその家族の皆さんから、職場や家庭におけるエコな活動の写真を投稿してもらう環境フォトコンテストです。2017年は、総投稿数584件が集まりました。各地で環境ボランティア活動も展開しています。



詳細は、当社Webサイトにてフルレポート版をご覧ください。
<http://www.kubota.co.jp/report/>



Social 社会への取り組み

クボタグループでは、さまざまなステークホルダーの皆様の満足向上を図り、企業価値を高める活動を、それぞれのテーマごとにPDCAサイクルをまわして推進しています。

地域社会との関わり

「食料・水・環境」分野がかかえるさまざまな課題の解決を目的とした社会貢献活動を実施しています。

主な事例

日本 未来をつくる次世代の育成

『クボタ地球小屋』

子どもたちが自然の恵みの豊かさや地球環境の大切さについて学び、考えるサマーキャンプに協賛しています。



インド 世界の水環境を改善

『井戸建設支援』

安全な水にアクセスできない人を少しでも減らすため、アジア地域で長年にわたり活動しているNGOを通じて現地への支援を行っています。



2025年万博誘致活動に参画!

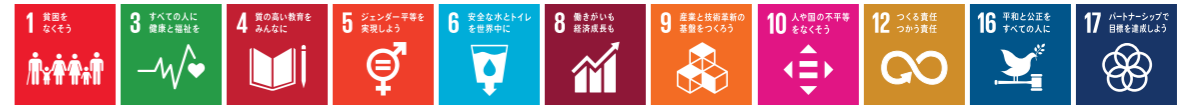
クボタグループは、2025年日本万国博覧会誘致委員会のオフィシャルパートナーとして誘致活動を支援しています。



石綿問題への対応について

クボタは旧神崎工場周辺の方々や従業員に石綿疾病の方が出ている事実を真摯に受け止め、過去に石綿を扱ってきた企業として社会的責任を果たすという観点から、今後とも誠意をもってこの問題に取り組んでいきます。詳細については、<http://www.kubota.co.jp/kanren/> をご覧ください。

(社会への取り組みに関連するSDGs)



お客様との関わり

「お客様第一主義」で、お客様ののぞみを超える製品・技術・サービスを、お客様の予想を超えるスピードで提供することをめざしています。

「お客様に最大限喜んでいただくにはどうすればよいか」を、「現場主義」で、現場で現物を見て現実を確認しながら考え、できることはすぐに実行する、ということを積み重ねています。

研究開発

世界中のお客様に「感動いただける商品」を提供するため、研究開発拠点の役割を明確にし、日本をコアとするグローバルな研究開発体制を進化させ、推進しています。



新設したタイの研究開発拠点

生産

グローバルな生産体制を構築するとともに、各拠点でクボタ生産方式(KPS:Kubota Production System)の展開を進めています。



社長による生産現場の視察

サービス

お客様ごとに的確なメンテナンスを実現するために、サービス技術力やソリューション提案力を競い合うコンテストの開催や、お客様満足度調査を実施しています。



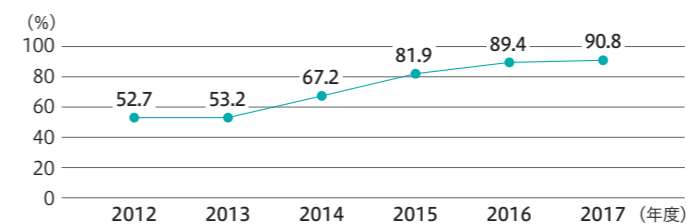
サービス技術コンテスト

従業員との関わり

働きやすさと働きがいの提供

従業員が、安全に安心して働けることはもちろんのこと、誇りや喜びを実感しながら働ける、働きやすさと働きがいのある職場づくりを進めています。

■ 年次有給休暇取得率の推移(クボタ単体)

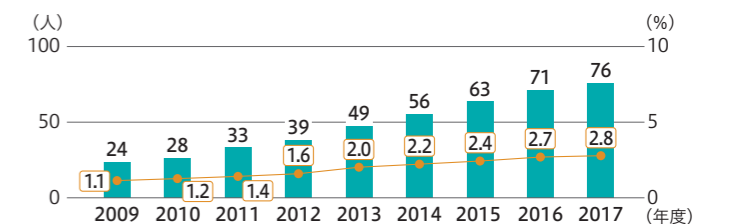


※2015年度までは、3月16日から翌年3月15日で累計
※2016年度からは、前年12月16日から当年12月15日で累計

女性の活躍を推進

職務区分の統合により女性の職務範囲を拡大するなど、女性登用を確実に進めています。

■ 女性管理職数の推移(クボタ単体)



メンタルヘルスの維持・増進

- 【セルフケア】
- ・ストレスチェック(※)
 - ・メンタルヘルス研修
 - ・産業保健スタッフによる相談対応 等
- ※ストレスチェック制度
高ストレス者の中で希望者には医師面談を実施。面談を希望しない者にも看護職の補助面談を実施。



研修の様子

【ラインケア】

- ・管理監督者向けの研修

【その他】

- ・メンタルヘルス推進担当者向けの研修

取得認証



「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定を受けた証



女性活躍推進に優れた上場企業に選定された証

詳細は、当社Webサイトにてフルレポートをご覧ください。
<http://www.kubota.co.jp/report/>



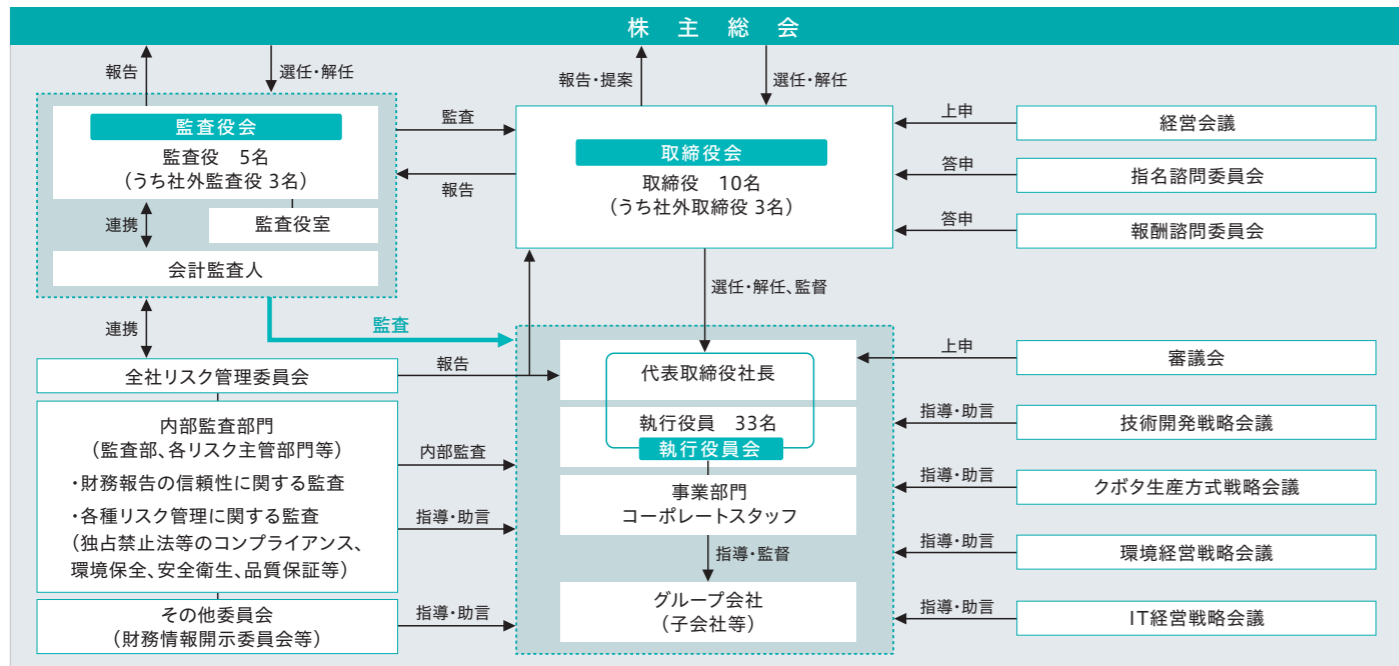
Governance ガバナンスへの取り組み

経営環境への迅速な対応、経営の透明性を向上させるため、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。



取締役 社外取締役 伊奈 功一
 専務執行役員 佐々木 真治
 取締役 専務執行役員 北尾 裕一
 取締役 専務執行役員 木村 茂
 代表取締役社長 木股 昌俊
 代表取締役 副社長執行役員 久保 俊裕
 取締役 専務執行役員 小川 謙四郎
 取締役 専務執行役員 吉川 正人
 社外取締役 松田 譲
 社外取締役 新宅 祐太郎

■コーポレートガバナンス体制図(2018年3月23日現在)



| | 取締役会 | 監査役会 | 執行役員会 |
|------|---|--|--|
| 目的 | 戦略的な意思決定と執行役員による業務執行の監督 | 取締役の業務執行の監督と監査 | 執行役員の業務執行状況の確認および迅速かつ適切な経営の判断の実施 |
| メンバー | 10名の取締役(うち、社外取締役3名) ●社外取締役の出席率(2017年1~12月) 松田 譲(100%)・伊奈 功一(100%) | 5名の監査役(うち、社外監査役3名) ●社外監査役の出席率(2017年1~12月) 森田 章(100%)・鈴木 輝夫(100%) | 代表取締役社長および執行役員(33名) |
| 開催頻度 | 定例は毎月1回(加えて必要に応じ随時) | 定例は毎月1回(加えて必要に応じ随時) | 定例は毎月1回(加えて必要に応じ随時) |
| 内容 | 重要経営課題についての審議・決定 (経営計画に関する事項、資金計画、投資、事業再編など) | 監査の方針や監査報告などについて協議・決定 | 執行役員への取締役会の方針や決議事項の指示・伝達および、執行役員による業務執行状況の報告 |

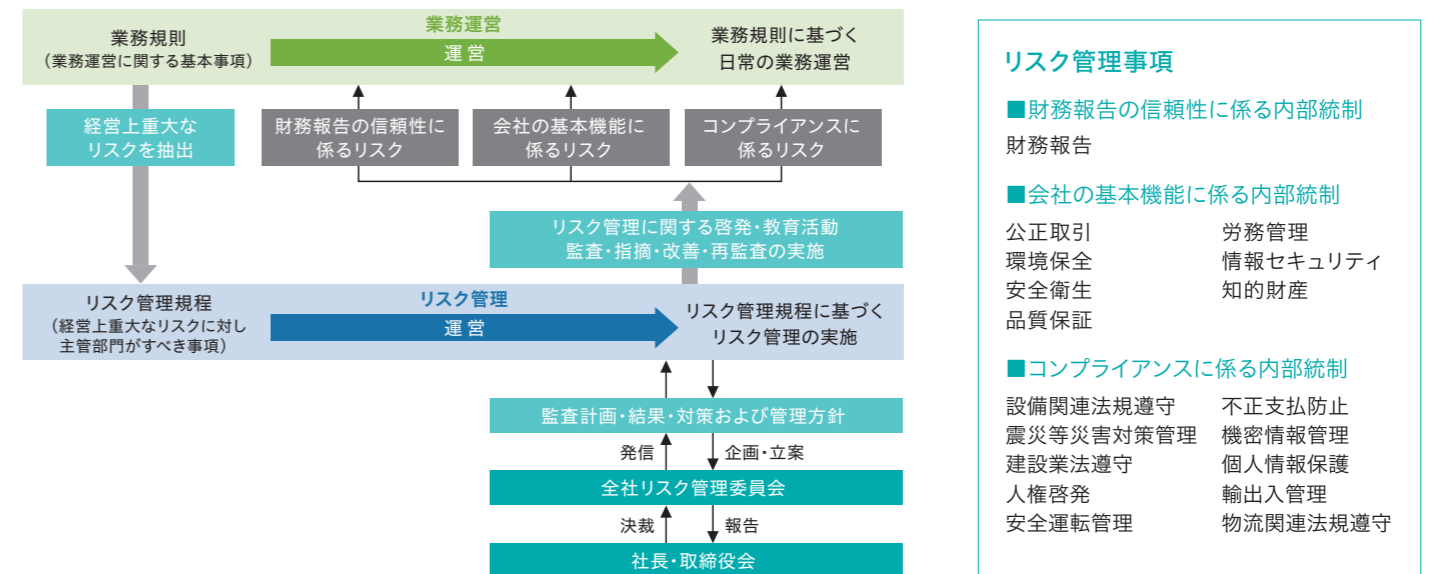
(ガバナンスへの取り組みに関連するSDGs)



内部統制システム

クボタグループの内部統制システムは、業務を遂行するうえで守るべきルールを明確に定め、このルール通りに業務が運営されているかチェックする仕組みです。このシステムは、ルールに基づいて業務を遂行する「業務運営」と、経営上重大なリスクを管理する「リスク管理」から構成されています。

■内部統制システムの概要



- ### リスク管理事項
- 財務報告の信頼性に係る内部統制
財務報告
 - 会社の基本機能に係る内部統制
公正取引 労務管理
環境保全 情報セキュリティ
安全衛生 知的財産
品質保証
 - コンプライアンスに係る内部統制
設備関連法規遵守 不正支払防止
震災等災害対策管理 機密情報管理
建設業法遵守 個人情報保護
人権啓発 輸出入管理
安全運転管理 物流関連法規遵守

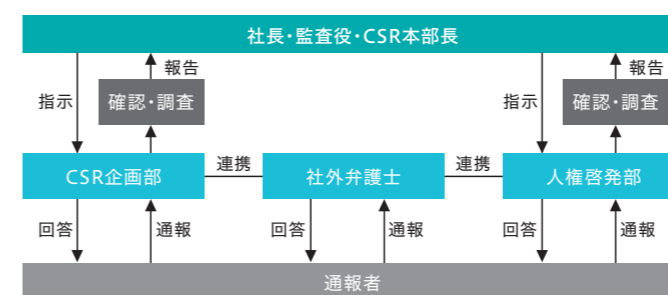
内部通報制度(クボタホットライン)

リスク管理を補完する仕組みとして、内部通報制度を運用しています。

違法・反倫理的行為の抑制、早期発見・是正を行うとともに、風通しの良い組織風土の醸成に努めています。

| | |
|---|--|
| 窓口の種類と取扱内容 | CSR企画部窓口(人権問題以外)、人権啓発部窓口(人権問題)、社外弁護士窓口 |
| 利用できる対象者 | クボタと国内グループ会社の正規従業員、パートタイマー、アルバイト、派遣社員 |
| 通報件数 | 2016年1月~12月は30件、 2017年1月~12月は52件 |
| ※ 海外では各拠点で対応し、重要案件については各拠点からクボタ本社に報告する仕組み (2017年より中国における内部通報については、全案件をクボタ本社に報告する仕組みとしました。) | |

■クボタホットライン フロー図



役員のトレーニング

クボタでは、CSR、人権、安全、環境、品質、広報等のテーマに関して役員フォーラムを開催し、経営の監督に必要な知識の取得・更新の機会を付与しています。



CSRフォーラムで話す 小林 英明弁護士

2017年度の各フォーラムテーマ

- 【CSR】不祥事の予防・対応における経営幹部の役割
- 【人権】LGBTが動きやすい職場づくりのために
- 【安全】企業の「安全文化」構築に向けた、一人ひとりの果たすべき役割
- 【環境・品質】先進企業の環境経営・品質経営事例
- 【広報】広報の重要性とリスクコミュニケーション

詳細は、当社Webサイトにてフルレポートをご覧ください。
<http://www.kubota.co.jp/report/>





創業者 久保田権四郎

技術的に
優れているだけでなく、
社会の皆様にも役立つもので
なければなりません。

未来に引き継がれるクボタの精神

～2017年、2つの工場が 設立100年を迎えました～

最も多くのお客様から
信頼されることによつて、
最も多くの社会貢献を
なすうるブランドへ。

代表取締役社長 木股昌俊



これまでの100年

工場設立以来100年(2017年8月)、
長きにわたり事業活動が続けることができたのは、
お客様をはじめ取引先や地域住民の皆様等、
全てのステークホルダーの方々からのご愛顧とご支援の賜物と、
心より御礼申し上げます。

これからの100年

クボタはGMB(グローバル・メジャー・ブランド)実現に向けて、
これからも時代が求める製品・技術・サービスを通じて、
食料・水・環境の分野での課題解決を図り、
持続的な社会の発展に向けて貢献してまいります。

設立100年を迎えた2つの工場

■ 阪神工場尼崎事業所

铸铁管の生産拠点として設立され、
現在は圧延用ロールやダクタイル異形管を製造



当時の阪神工場尼崎事業所

■ 恩加島事業センター

設立以来、鑄造技術を革新し続け
様々な産業分野の基盤となる鑄物製品を製造



当時の恩加島事業センター

現在の生産現場



近年新設した拠点



中国
生産拠点(農業機械)



日本
堺製造所内の研究棟(農業機械・建設機械)



タイ
研究開発拠点(農業機械)



フランス
生産拠点(農業機械)



アメリカ
研究開発拠点(水環境分野)



日本
枚方製造所内の総合棟(※建設中)



本社

会社概要(2017年12月31日現在)

社名 株式会社クボタ
本社 大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号
創業 1890年
資本金 841億円

発行済株式総数 1,234,024,216株
株主数 37,855人
連結売上高 1兆7,515億円
連結従業員数 39,410人